# 園長先生の子育てひろば

令和３年７月

## 年少さんの大仕事

園長　山中　文

年少さんの頃の遊びは、何人かで一緒にいて同じような遊びをしていても、相互の関わりが少ない「平行遊び」だと言われています。

でも、なかなかどうして、大人の声かけによっては、集団でかかわりあう姿が見えてくることもあります。そんな一コマを紹介しましょう。

幼稚園には、登りたくなる木がいくつかあります。年少さんがよく遊ぶ前庭にもそんな木が２本ほどあります。でも、その木の根元には、花壇の囲いの役をする大きな石がいくつかあり、もし登ってて落ちると危険です。そこで、「そうだ、石、どけちえ！」とばかり、年少さんたちの作業が始まりました。

みんなで、砂場スコップを持ち寄って、石の下に穴を掘ります（①）

なぜか消防車の型を持ってくる園児も。掘れるのか？（②）

いや、なかなかすばらしい。掘れてきて、石が取り除かれているではありませんか。

ポツンと残されたスコップが苦闘の後を物語っています（③）

①

②

③

そして、すっきりと木登りが始まったのでした（④）。

もちろん、掘れた大きな石は、さっそく遊び道具に（⑤⑥）。

④

⑤

⑥

年少さんの頃には、やりたいことを伝えたり、かかわりたいという気持ちが芽生えてきたりするようになりますので、こんな共同作業もできるようになるのですね。

ご家庭ではなかなかこのような集団の姿は見えませんが、大人とかかわる簡単なお手伝いや作業もできるようになりますから、ご家庭内でひとつお任せする仕事をつくってもいいかもしれません。

私は、子どもが誕生日を迎える時に、誕生日プレゼントと一緒に「だんだん大人に近づいてくるお祝いのお仕事」を一つずつ渡しました。2 才の誕生日は「自分の食べたお茶碗を流しに持っていく」、3 才の誕生日は「家族のはしを並べる」でした。もっとできるお子様もいらっしゃるでしょうけれど、毎日のことになりますから、ごくごくシンプルな「これならやれる」と思われるものがいいようです。よかったら、喜んでやってくれそうなお手伝いをさがしてみられるのはいかがでしょう。